

# 公立学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和7年3月24日

甲州市

【甲州市】  
端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	1,880	1,819	1,784	1,704	1,655
② 予備機を含む 整備上限台数	2,162	2,091	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	1,819	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるも の	0	1,819	0	0	0
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	272	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるも の	0	272	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	15%	0%	0%	0%
(端末の整備・更新計画の考え方)					
GIGAスクール構想「第1期」で、令和2年度に整備した端末(2,266台)について、令和7年 度に更新を行う。整備する計画台数は、当該年度の児童生徒数に15%の予備機を加えたも のとする。					
(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)					
○ 対象台数: 2,266台					
○ 処分方法					
・使用済端末を予備機・指導用端末・校外学習用端末等で再利用: 2,166台 (端末点検後、再利用に耐えられない端末があった場合には、小型家電リサイクル法の認定 事業者に再使用・再資源化を委託)					
○ 端末のデータの消去方法					
・処分事業者へ委託する					
○ スケジュール(予定)					
令和8年1月 新規購入端末の使用開始、再利用端末の点検を実施					
令和8年5月 必要に応じて処分事業者を選定					
令和8年7月 使用済端末の事業者への引き渡し					

【甲州市】  
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)

- ・総学校数:17校(小学校13校、中学校4校)
- ・ネットワーク速度が確保できている学校数:17校(小学校13校、中学校4校)
- ・総学校数に占める割合:(100%)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和2年度:GIGAスクールネットワーク環境を構築。ネットワークアセスメントを実施。

全小中学校でインターネットサービス200Mbpsを利用。

令和3年度:データ伝送に課題があったため、学術情報ネットワーク(SINET)接続の実証

実験に参加し、高速大容量の情報通信ネットワークを利用した結果、通信速度  
の改善が図られた。

令和4年度:SINETを導入により、光ファイバを利用した高速大容量(2Gbps)の広域イ  
ーサネット接続による安定的な利用が可能となった。

また、これまでに、継続的に簡易的なアセスメントを隨時実施している。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和4年度SINET導入により、ネットワーク環境が整備され、ネットワーク環境に起因する  
遅延は現在に至り見られていない。しかしながら、端末本体の処理速度がボトルネックとな  
っている現象は見られるため、令和7年度より端末更改を実施する。

また、今後クラウドサービスの利用頻度向上が予想されるため、端末更改以降にネットワ  
ークアセスメントの実施について検討する。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合  
には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

現状では、端末のスペック不足が要因となる遅延が見られるため、令和7年度に端末更  
改を実施する。

## 【甲州市】

### 校務DX計画

#### 1 「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検を踏まえ、チェックリストに示されている課題や、その解決策

甲州市では、校務系ネットワークを外部ネットワークから分離し、児童生徒の個人情報等について、セキュリティ対策を行ってきた。システムにより業務の効率化や業務方法の共有化、調査回答の時間短縮等が図られている他、統一アドレスにより教員の異動によるアドレス変更がなく、異動の負担を軽減した環境を構築している。また、FAXでのやり取りは原則禁止と、教育委員会として不必要的押印を求めることがないよう業務の見直しを行っている。教職員間や教職員と教育委員会との情報伝達については、チャットやメール等を用いるなど、クラウドサービスの積極的な活用を促進することによる校務の効率化やペーパーレス化を推進している。

児童生徒の欠席・遅刻連絡については、安心安全メールを活用して、クラウドサービスを利用した連絡を実施しているが、小規模校においては、電話連絡で対応する学校もあるため、全校で実施を行うよう進めていく。

#### 2 校務系ネットワーク・システム等の現状分析及び望ましい校務の在り方に関する検討

##### 【次期校務支援導入及びゼロトラストセキュリティへの移行】

現行での校務支援システムのネットワークは、ネットワークを分割している境界防御型によるセキュリティ対策となっている。令和7年度より、教育系システムの更新と情報セキュリティを向上させることを目的とし、教育系ネットワークにおけるネットワーク機器、サーバ及び端末等の老朽化した機器を新しい機器に入れ替える予定である。次期校務支援システムについては、今後のクラウドシステム利用を見据え、情報漏洩や外部からの攻撃、クラウドサービス利用のセキュリティリスクを低減、業務の効率化を行うため、ガイドラインに基づき、教育系ネットワークを「ネットワーク分離構成」から「アクセス制御方式であるゼロトラストセキュリティ構成」に移行する。

##### 【校務系・校務外部接続系・学習等のネットワーク環境の統合】

本市のネットワークは、校務系、校務外部接続系、学習系(GIGA系)で分離されており、環境間毎のデータのやり取りに複雑さがあり課題であった。そのため、次期校務支援システム導入においては、校務系と校務外部接続系を統合し、山梨県の校務支援システムとの接続には新しく構築するゼロトラストネットワークを経由して接続する構成にすることにより、教職員間や教職員と教育委員会間のデータのやり取りが円滑になることにより、業務負担の軽減が図られ、教職員の働きやすさの促進を図る。

## 【甲州市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

これからの中学生は、将来の変化を予測することが困難な時代であり、このような時代を生き抜くため、確かな学力が必要となる。本市では、学習指導要領及び中央教育審議会答申等の内容を踏まえ、1人1台端末とクラウドを活用した環境の中で、個別最適な学びと協働的な学びにより、児童生徒の生きる力を育み、確かな学力の育成を目指す。さらに、児童生徒が自分の周囲の人たちの良さに目を向け、自ら課題を見つけ意欲的に学ぶ姿勢を身につけ、自己肯定感を高めることができるように、今後も取り組んでいく。

#### 2. GIGA第1期の総括

甲州市では、GIGAスクール構想の実現に向けて、県内でいち早く1人1台端末と校内ネットワーク(無線LAN)の整備を行うとともに、高速大容量の情報通信ネットワークを利用することにより、クラウドを十分活用することができる環境整備をしてきた。こういった環境の中で、授業において日常的に1人1台端末を利用して、クラウドを活用することで児童生徒がお互いの学習の様子がわかるようになり、児童生徒の学びを助けることに繋げてきた。

令和6年度においては、GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を徹底的に活用し、情報活用能力の育成を図りつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や校務DXを推進し、全国に好事例を展開することとするリーディングDXスクール事業に、甲州市の小学校1校と中学校1校の計2校が指定されている。

また、教育の情報化の推進を支援するために、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校を認定する学校情報化認定事業について、「情報化的推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校として、甲州市の市内全小中学校が、学校情報化「優良校」として認定された。さらには、県内では初となる、学校情報化優良校が一定以上の割合となった地域を認定する、学校情報化「先進地域」に甲州市が認定された。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新により、GIGA第1期の1人1台端末とクラウド環境を引き続き維持していく。1人1台端末の日常的な活用はほぼできている。本市には、文部科学省のリーディングDXスクール事業指定校が2校あり、さらには全校が学校情報化推進地域に認定された。これらの学校では、先進的な学校へ視察に行き、その先進校の状況を各学校に還流していくことにより、各学校において実践や研究を進めていく。これらにより、個別最適な学びや協働的な学びが充実し、児童生徒が自ら学ぶ育成を進めていく。また、指定校に選ばれた学校では、公開事業を市内全教員に公開することにより、教師自身が主体的に学ぶことができるようにしていく。

学びを保障するために、1人1台端末とクラウドを活用し、不登校児童生徒への支援についてオンラインを活用した連絡体制、オンラインでの授業への参加を行っている。希望する児童生徒へ学びの機会を提供できるよう、切れ目のない授業支援をしていく。

教育相談について、現在中学校で行っている心の健康観察を小学校にも拡大し、市内全体

として児童生徒へ実施することで、児童生徒の学校生活での変化を読み取り、教育相談に繋げていく。